

「尾崎小学校の尾崎三尺棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立尾崎小学校

2 学年

全学年児童（計10人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

毎月1回 総合的な学習の時間（1年生は創意）

9月は尾崎棒踊り保存会及び尾崎棒踊り保存会OBの指導により、集中練習を行う（3回ずつ計6回）

(2) 発表の日時・場所

校区合同秋季大運動会（尾崎小学校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称 尾崎三尺棒踊り（おさきさんじゃくぼうおどり）

(2) 由来

数百年前から踊り継がれているものであるらしいが、詳しい資料が残っていない。地域の老人会、保存会、文化協会の方に伺ったが詳しいことは、分からない。弓木野集落と尾崎集落のそれぞれに棒踊りがあったようだが、現在行っている踊りは尾崎集落の三尺棒踊りのようである。

(3) 構成等

6人1組で踊る。3列縦隊が基本である。

頭には白いはちまきを締め、かすりの着物を着て白いたすきをかける。足は黒の靴下の上に、わらじを履く。腰には堅木の三尺棒を差す。戦いの踊りで、足の裏を見せないように踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

昭和40年代の人口の減少とともに、伝承活動も途絶えがちであったが、昭和54年尾崎小体育館落成記念式典にあたり、尾崎三尺棒踊り保存会の支援を受け、5・6年生児童で「郷土芸能『尾崎三尺棒踊り』児童保存会」が結成され、14年ぶりに尾崎三尺棒踊りが復活した。その後38年間継承されている。平成20年からは、総合的な学習の時間に毎月1回全校で練習を行い、秋の運動会で披露している。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

(1) 尾崎棒踊り保存会には会員の仕事の都合で主に夜に指導を受けてきたが、保存会OBの皆さんに昼間も指導を受けることにより、下学年も短期間で踊りを覚えることができた。

(2) 着物は地域の方の手縫いで、着用後はクリーニングに出して大切に保管している。

7 取組の様子

【授業： 三尺棒踊り保存会OB の方の指導】



【令和元年度 第72回秋季大運動会当日】



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 児童

総合的学習の時間にふるさと尾崎の歴史やよさについて調べている。三尺棒踊りの振りを覚えるのは大変だったけど、運動会で披露できてうれしかった。

(2) 保護者

長く続く伝統を受け継いでいくことは誇りであり、大切なことだと感じる。人数は少ないが、地域の方や保護者、学校と協力して、今後も継続させたい。

本年度は保護者も2名参加して、子供たちと一緒に踊ることができてよかった。

(3) 保存会

覚えるのが早くて驚いた。細かい部分は練習が必要だが、9月までにだいたいの流れを覚えていたので、指導しやすかった。

(4) 教員

高学年がリーダーとなって、下学年に教えたり、お互いに話し合い、つながりを確認したりして、三尺棒踊りを伝承する態度が見られた。

また、本校卒業生である保護者も時には一緒に踊ってくださり、学校・家庭・地域が一体となって伝承していくことができた。

保存会やOBの方の踊りを見せるだけでも、子供たちに郷土に伝わる伝統芸能のすばらしさを感じさせるよい機会になった。